

国語 第5学年 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の第5学年（令和6年度版）に載っている説明的な文章と、書くことの教材を組み合わせた単元。光村図書の年間指導計画例では11月に扱い、コラム「統計資料の読み方」も同じ単元に入っている。他の会社の教科書を使う学級では目次で確かめる。資料の数と番号、段落の数は使う教科書の本文で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、説明的な文章を読む時に、表やグラフ、地図、写真などの資料が文章のどこを示しているかを結び付けて読み、書き手がその資料を用いた効果を、資料が無い場合と比べて説明できる。資料の効果を、数の違いを比べられる、変化が見える、場所が分かる、様子が伝わる、などの言葉で言い分けられる。そのうえで、自然環境を守るために伝えたい考えを決め、その根拠になる資料を選び、出典を示して引用し、文章と資料を結び付けて書ける。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(2)ア	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと(1)エ	エ 引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(1)ウ	ウ 目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりすること。
〔第5学年及び第6学年〕の目標(2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げることができるようにする。
〔第5学年及び第6学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(2)イ	イ 情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(1)ア	ア 事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(2)ア	ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み，分かったことや考えたことを，話し合ったり文章にまとめたりする活動。
〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと(1)ア	ア 目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。
〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと(1)イ	イ 筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えること。

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと(1)カ	カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと(2)ア	ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)	(3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りがないよう配慮して選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)エ	エ 科学的、論理的に物事を捉え考察し、視野を広げるのに役立つこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)キ	キ 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の教材については、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章形態を調和的に取り扱うこと。また、説明的な文章については、適宜、図表や写真などを含むものを取り上げること。

単元目標

原因と結果など情報と情報との関係について理解する ((2)ア)。目的をもって、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする (C(1)ウ)。引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する (B(1)エ)。資料の効果を粘り強く考え、進んで資料を用いて思いや考えを伝え合おうとする (学年の目標(3))。

評価規準 (3観点)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) ②「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)	①粘り強く、文章と図表などを結び付けて資料を用いた効果を考え、学習の見通しをもって、資料を用いて自然環境を守るための考えを書こうとしている。

単元の流れ

全10時間。光村図書の年間指導計画例（令和6年度版）が、この単元に10時間（読むこと5・書くこと5）を配当している。次ごとの内訳はこちらの案。学校の年間指導計画に合わせて増減する。国語の標準授業時数は第5学年で年間175単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○題名と資料だけを見て、どんな内容かを予想する。 ○全文を読み、初めの感想を書く。 ○単元の課題「今泉さんが資料を用いた効果を考え、資料を用いて、自然環境を守るための考えを書こう」と学習の見通しをもつ。	態①（見通しの記述）
第2次	2	○文章を初め・中・終わりに分け、事実を述べた所と書き手の考えを述べた所を区別して、要旨をまとめる。	
	3	○資料ごとに、どの段落のどの文と結び付いているかを確認、 「資料と文章の対応表」を作る。 ○生き物の数の変化とその原因を述べた所を見付け、原因と結果を矢印で結ぶ。	知①（対応表・ノート）
	4 （本時）	○資料が無い場合と比べて、書き手が資料を用いた効果を考え、説明する。	思①（ワークシート・発言）
	5	○コラム「統計資料の読み方」で、グラフの目盛りや単位、出典の読み方を確認する。 ○資料の効果について考えたことをまとめ、書く時に使いたい資料の使い方を選ぶ。	知①（ノート）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第3次	6	○自然環境を守るために伝えたい考えを決め、本や新聞、統計資料などから材料を集める。	
	7	○集めた材料を分類したり関係付けたりして、考えと根拠を決め、どこにどの資料を置くかを考えて構成を立てる。	
	8	○資料を用い、引用の仕方と出典の書き方に気を付けて文章を書く。	思②（文章）
	9	○書いた文章を読み返し、文章と資料が結び付いているかを確かめて書き直す。	思②（文章） 態①（文章の見直し）
	10	○グループで文章を読み合い、資料の使い方のよい所を伝え合う。 ○学習を振り返る。	態①（振り返り）



本時の案

本時の目標：書き手が文章の中で資料を用いた効果を、資料が無い場合と比べながら文章と資料を結び付けて考え、説明できる。(C(1)ウ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時に作った「資料と文章の対応表」を見て、資料ごとに結び付く段落を確かめる。 2 本時のめあてをつかむ。 ○「今泉さんは、なぜ文章だけで説明せずに、資料を付けたのでしょうか」 【めあて】筆者が資料を用いたことで、読む人にどんな効果があるかを考えよう。 〈予想される児童の反応〉 ・文章だけだと、数の違いがつかみにくいから。 ・写真があると、どんな動物か見当がつくから。	・対応表を拡大して黒板に貼る。 ・資料の番号と中身は、使う教科書で先生が確かめておく。
展開 (分)	3 先生が一つの資料を隠して、その資料と結び付く段落を読む。次に資料を示し、ある場合と比べる。 ○「この資料がないと、読む人にとって何がつかみにくくなりますか」 4 一人で、自分が選んだ資料について、効果をワークシートに書く。 (型)「資料……は、……段落の……を、……で示している。この資料があることで、読む人は……が分かる。資料がないと……」 5 同じ資料を選んだ人どうしのグループで考えを比べる。その後、違う資料を選んだ人とペアで伝え合う。 6 全体で、効果を仲間分けする。 ○「効果を仲間分けすると、どんな種類がありますか」 ○「資料は、今泉さんの考えとどう結び付いていますか」 〈予想される児童の反応〉 ・表やグラフがあると、数の大きさや違いを比べられる。 ・グラフがあると、数が増えたり減ったりした変化が見える。 ・地図や図があると、場所や、土地の移り変わりが思い浮かぶ。 ・写真があると、見たことのない動物の様子が伝わる。 ・どの資料も、今泉さんの考えの根拠になる事実を、読む人が確かめられるようにしている。 ・資料が先にあると、読む人が興味をもつ。	・資料を隠して読む時は、本文の言葉だけで思い浮かべたことを一度言わせてから、資料を示す。 ・ワークシートを書けない子には、対応表で結んだ段落と一緒に読み、「この文の、どの言葉を資料が示しているか」と聞く。 ・「分かりやすくなる」で終わる子には、「何が」「どのように」伝わるのかを聞き返す。 ・早く書けた子には、資料の置き場所(文章の前か後か)や、資料どうしの組み合わせの効果を考えさせる。 ・仲間分けで出た言葉(比べられる・変化が見える・場所が分かる・様子が伝わる)は、書く時に使えるように掲示に残す。 ・グラフの読み違いが出たら、次時のコラムで目盛りと単位を確かめることを伝える。 ◎思① 文章と図表などを結び付けて、論の進め方について考えている。(ワークシート・発言)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	7 学習をまとめる。 【まとめ】資料は、文章だけでは伝わりにくい数の違いや変化、場所、様子を示し、筆者の考えの根拠を読む人が確かめられるようにしている。 8 振り返りを書く。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が書く時も、考えの根拠になる資料を選びたい。	・まとめは子どもの言葉を使い、黒板の仲間分けと結ぶ。 ・振り返りは「資料の効果で考えたこと」と「自分が書く時に使いたい資料の使い方」の二つで書かせる。

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に日付、題名、めあて。その左に「資料と文章の対応表」（縦に資料の番号、横に資料の種類・結び付く段落・分かること）。中ほどに、資料を隠した場合と示した場合の比べ（子どもの言葉）。その左に、効果の仲間分け（比べられる・変化が見える・場所が分かる・様子が伝わる）を四つの枠で示し、資料の番号を貼り分ける。その下に、資料と書き手の考えのつながりを矢印で示す。左端にまとめと、振り返りの二つの観点。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、資料を見て分かることと、文章に書いてあることを結び付けられない。手当ては、資料と文章の対応表を作り、資料の番号を本文の横に書き込ませること（C(1)ウ）。二つ目、グラフの目盛りや単位を読み違える。手当ては、コラムで、縦軸と横軸が何を表しているか、一目盛りがいくつかを先に確かめる習慣を付けること（(2)イ）。三つ目、事実と書き手の考えを区別できず、要旨に事実を並べてしまう。手当ては、文末に着目して、考えを述べた文に別の色の線を引くこと（C(1)ア）。四つ目、原因と結果を取り違える。手当ては、「……したので、……になった」の形で矢印を使って書き、矢印の向きを確かめること（(2)ア）。五つ目、書く時に資料を集めることが目的になり、考えと資料が結び付かない。手当ては、伝えたい考えを一文で先に書かせ、その考えの根拠になる資料だけを選ばせること。資料には出典を書き、文章の中で「資料……のように」と指して書かせる（B(1)エ）。

プリントの案

資料と文章の対応表（単元を通して使う）

縦に資料の番号、横に「資料の種類（表・グラフ・地図・写真など）」「結び付く段落と文」「この資料から分かること」の欄。資料の番号と中身は先生が教科書から書き入れる。C(1)ウに合わせた。

原因と結果の矢印シート

左に「原因（……したので）」、右に「結果（……になった）」の枠を矢印で結ぶ形を三組。本文から見付けた事柄を書き入れ、矢印の向きが合っているかをペアで確かめる。〔知識及び技能〕(2)アに合わせた。

資料の効果のワークシート（本時）

上に、選んだ資料の番号と、結び付く段落を書く欄。中ほどに「資料……は、……段落の……を、……で示している」「この資料があることで、読む人は……が分かる」「資料がないと……」の型。下に、効果の仲間分け（比べられる・変化が見える・場所が分かる・様子が伝わる・その他）に丸を付ける欄。

グラフの読み方の確かめカード

「題名」「縦軸は何か」「横軸は何か」「一目盛りはいくつか」「単位」「出典（誰が・いつ）」の六つの欄。教科書の資料にも、自分で集めた資料にも使う。〔知識及び技能〕(2)イの、情報と情報との関係付けの学習に合わせた。

構成メモと読み合いカード

構成メモは「伝えたい考え（一文）」「根拠になる事実」「使う資料と出典」「資料を置く場所」の欄を、初め・中・終わりの順に並べる。読み合いカードは「資料の使い方でよかった所」「資料と文章が結び付いていない所」の二つの欄。B(1)エ・カに合わせた。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価規準の文末と3観点の形、領域ごとの書き出しの形（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第5学年175）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書 年間指導計画例 5年（令和6年度版）。単元の時期（11月）と配当10時間（書くこと5・読むこと5）の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/d8b2753f-1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368）／光村図書 小学校国語 年間指導計画・評価計画のページ（令和6年度版）（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重